

令和6年度

東久留米市立西中学校
特別支援学級経営方針

「良き社会人」の育成を目指して

学校の教育目標

「賢く 優しく 逞しく」

－ 1学年 自主 2学年 自律 3学年 自治－

特別支援学級教育目標

「将来、就労し自立するために必要となる、基本的な生活習慣及び知識・技能、他者や集団と良好な人間関係を構築するための資質や能力を身に付ける」

令和6年度 I組 学年経営案

主任 上野 香帆里

教育目標

賢く 優しく 遅しく

1学年 自主 2学年 自律 3学年 自治

1 はじめに

中学校を卒業すると、生徒は、新しい社会へと出ていくことになる。3年間の中学校生活は、「よき社会人」となるべく準備期間であり、中学校は「よき社会人」を育成することを目的に、個人の資質・能力を最大限に伸ばすことで、社会的責任を果たしていく。

本学級における「よき社会人」を育成するという社会的責任は、障がい者雇用促進法で定められた企業就職あるいは、それに準ずる施設への入所または通所（以下、就労という）が叶う生徒の育成をもって果たせる。

2 教育目標を達成するための学年目標

「将来、就労し自立するために必要となる、基本的な生活習慣及び知識・技能、他者や集団と良好な人間関係を構築する資質や能力を身に付ける」

3 教育目標達成のための指導の基本方針

【進路指導】

- ・ 都立特別支援学校就業技術科及び職能開発科の適性検査に対応できる生徒の育成を目指す。
- ・ 他者や集団との人間関係を構築できる社会性の育成を目指す。
- ・ 将来、就労して社会に貢献することに対して、期待や希望がもてる生徒の育成を目指す。

【生活指導】

- ・ 自己の健康や体力に関心をもち、それらを適切に管理する能力をもった生徒の育成を目指す。
- ・ 身の回りの環境を清潔に保つことのできる生徒の育成を目指す。
- ・ さわやかな身なりを心がけることのできる生徒の育成を目指す。
- ・ 自分のことは自分でできる生徒の育成を目指す。

【教科指導】

- ・ 発達段階に応じた、実生活で生きて働く知識・技能の修得を目指す。
- ・ 発達段階に応じて、学習したこと同士を結合して考えたり、課題解決の適切な方法を判断したり、自分の分かったことを表現したりできる生徒の育成を目指す。
- ・ 自己の課題解決を目指し、学習の方法を試行錯誤する、仲間と協力する、既習の事項を活用するなどの自己調整をして学習に取り組む。或いは、できるまで繰り返す、継続して積み重ねるなど、粘り強く取り組む主体的に学びに向かう態度の涵養を目指す。

【道徳教育】

- ・ 様々な視点に立ち、物事を判断する（考える）ことができるようなきっかけを与える。
- ・ 他者の立場にたって物事を考えたり、想像したりすることのできる生徒の育成を目指す。

4 具体的な指導の手立て

【進路指導】

- ・ 自分の気持ちや考えを短い文章にまとめる練習を毎日繰り返すために、連絡帳を重視し、断続的に取り組める環境整備を図る。
- ・ 学級活動や生徒会活動、学校行事（や多摩特研行事など）への積極的な参加を通して、役割と責任、社会貢献の精神を育み、社会性の育成を図る。
- ・ 職場見学や進路学習を通して、望ましい勤労観や職業観を身に付け、自分の進路（将来）に希望や期待のもてる生徒の育成を目指す。

【生活指導】

- ・ 体力向上を図るために昼休みの体育館運動に加え、「朝の運動（朝トレーニング）」を継続して実施する。
- ・ 清掃活動に力を入れ、清掃のもつ意味と価値、職業（仕事）の価値に触れる。
- ・ 登校前に頭髪や制服の乱れがないか点検をさせ、常にさわやかな印象の身なりをさせる。
- ・ 健康管理に関する習慣の定着を図る。

【教科指導】

- ・ 一人一人の教育的ニーズにできる限り近づける努力及び、授業と就労とのかかわりが意識できる授業を実践する。
- ・ 各教科における評価の観点を明確にする（個別指導計画にて）とともに、生徒に見通しをもたせ学習のまとめりごとに話し合ったり、協力し合ったりして自らの（班の又はグループの）課題を解決する学習を実践する。
- ・ 一人1台のタブレット端末の活用し、学ぶことの楽しさを体感させるとともに、個別最適な学びを意識した授業を実践する。

【道徳教育】

- ・ 自分を大切にし、友だちも大切にすることを指導の根幹に据え、いじめのない安全安心な学校生活を実現させるために、全ての教育活動で生命尊重・人間尊重の精神の涵養に努め、生徒の人格の完成を目指す。
- ・ 他者や集団と良好な人間関係の構築を図るため、自己理解を深めさせることで、自尊感情を高めさせることを目指す。
- ・ 社会通念上正しいことを評価することで、生徒の自己肯定感を高めることを目指す。
- ・ 自己有用感[※]について教員間で共通認識し、生徒の自己有用感が高まるような声掛け及び指導を心掛ける

※自己有用感：生活指導リーフ（国立教育政策研究所）参照のこと